

平成 26 年度補正予算による継続課題に係る 継続評価書(案)

研究機関 : KDDI(株)、(公財)九州先端科学技術研究所、(株)セキュアブレ
イン、横浜国立大学、(株)KDDI 研究所、ジャパンデータコム(株)

研究開発課題 : 国際連携によるサイバー攻撃の予知技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 23 ~ 27 年度

代表研究責任者 : 中尾 康二

■ 総合評価 : 適

(評価点 18 点 / 25 点中)

(総論)

全体として、十分な研究開発成果を得られている。

また、新しいサイバー攻撃手法に対応した研究開発を行うなど、社会情勢の変化に臨機応変に対応しており、適切な研究開発が行われている。

(コメント)

- 個々のテーマでの研究開発成果は十分に上がっているため、最終年度である来年度は各テーマ間の連携をより一層強化し、より良い成果を目指してもらいたい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(5～1の5段階評価) : 評価 4 (評価点)

(総論)

新しい攻撃手法に対応するなど、当初の目標を超える成果が得られている。また、研究開発成果の活用を視野に入れて研究開発がなされている。

(コメント)

- 現実的な環境下において実装を含めた研究開発を行っており、社会への成果展開に向けた新しい試みを積極的に行っている。
- 数多くの成果が得られているが、上手くいっていない事例に関する考察には改善の余地があり、研究開発の結果に関して来年度はより深く分析を行うことが望ましい。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3 (評価点)

(総論)

計画的かつ有効に研究資金が使用されており、適正な支出状況である。

(コメント)

- 実施計画の遂行にあたり、研究開発推進に向けた受託者の積極的な姿勢が認められる。

(3) 研究開発実施計画

(5～1の5段階評価) : 評価4 (評価点)

(総論)

各テーマについて実現可能性の高い提案がなされており、最終年度の研究開発として適切な研究開発実施計画である。また、新たに出現したサイバー攻撃手法への対応を検討しているなど、社会情勢に合わせた柔軟性の高い提案である点も評価できる。

(コメント)

- 銀行系マルウェアやハートブリード攻撃等の新しい攻撃手法に対する対応を予定しているなど、実効性の高い研究開発成果が期待できる。
- 将来的な研究開発成果の社会展開に向けて、予知情報の信頼性の客観的評価手法についても検討を進めた方がよい。
- 個々のテーマについては十分な提案が行われているが、各テーマ間の連携が進むとなお良い。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3 (評価点)

(総論)

研究開発実施計画に基づいた適切な予算計画が組まれている。

(コメント)

- マルウェア検体の解析能力増強のために追加するサーバの経費を計上しているなど、来年度の研究開発を実施するにあたり必要な経費が十分に見積もられている。
- 実施計画の遂行にあたり、研究開発推進に向けた提案者の積極的な姿勢が認められる。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価 4 (評価点)

(総論)

来年度の研究開発を推進するために、十分な研究開発実施体制である。

(コメント)

- 研究開発を実施するために十分な人員を配置している。
- 最終年度の実施体制として、各テーマの研究開発成果を統合するための工夫が認められ、テーマ間の一層の連携強化が期待される。